

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2023.2.20-26

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。



15:10 【主】の**ことば**がサムエルに臨んだ。
 15:11 「わたしはサウルを王に任じたことを悔やむ。彼はわたしに背を向け、わたしの**ことば**を守らなかったからだ。」それでサムエルは怒り、夜通し【主】に向かって叫んだ。
 15:12 翌朝、サムエルはサウルに会いに行こうとして早く起きた。すると、サムエルに、「サウルはカルメルに来て、もう自分のために記念碑を立てました。そして向きを変えて進んで行き、ギルガルに下りました」という知らせがあった。
 15:13 サムエルはサウルのところに来た。サウルは彼に言った。「あなたが【主】に祝福されますように。私は【主】の**ことば**を守りました。」
 15:14 サムエルは言った。「では、私の耳に入るこの羊の声、私に聞こえる牛の声は、いったい何ですか?」
 15:15 サウルは答えた。「アマレク人のところから連れて来ました。兵たちは、あなたの神、【主】に、いけにえを献げるために、羊と牛の最も良いものを惜しんだのです。しかし、残りの物は聖絶しました。」
 15:16 サムエルはサウルに言った。「やめなさい。昨夜、【主】が私に言われたことをあなたに知らせます。」サウルは彼に言った。「お話しください。」
 15:17 サムエルは言った。「あなたは、自分の目には小さい者であっても、イスラエルの諸部族のかしらではありませんか。【主】があなたに油を注ぎ、イスラエルの王とされたのです。」
 15:18 【主】はあなたに**使命**を与えて言われ

ました。『行って、罪人アマレク人を聖絶せよ。彼らを絶滅させるまで戦え。』
 15:19 なぜ、あなたは【主】の御声に聞き従わず、分捕り物に飛びかかり、【主】の目に悪であることを行っただのですか。』
 15:20 サウルはサムエルに答えた。「私は、【主】の御声に聞き従い、【主】が私に授けられた**使命**の道を進みました。私はアマレク人の王アガグを連れて来て、アマレク人たちは聖絶しました。
 15:21 兵たちは、ギルガルでああなたの神、【主】にいけにえを献げるために、聖絶の物の中の最上のもので、分捕り物の中から羊と牛を取ったのです。」
 15:22 サムエルは言った。「【主】は、全焼のささげ物やいけにえを、【主】の御声に聞き従うことほどに喜ばれるだろうか。見よ。聞き従うことは、いけにえにまさり、耳を傾けることは、雄羊の脂肪にまさる。
 15:23 従わないことは占いの罪、高慢は偶像礼拝の悪。あなたが【主】の**ことば**を退けたので、主もあなたを王位から退けた。」

主はサムエルにサウルを退けることを告げました。サムエルはそれをサウルに告げますが、サウルは言い訳をして非を認めようとしません。そこでサムエルは「聞き従うことは、いけにえにまさる」のだと、サウルを諭します。
 サウルは見える部分にしか目が行かない人でした。自分が主に従っていないのに、ただ戦いに勝ったからということで、自分を誇る記念碑を建ててしまいました。自分の功績を宣伝する行為です。謙遜な人は自分の誇りになるようなことは極力避けるものです。
 またサウルは「主にささげるためです」と、勝手に自分のものとして戦利品を持ち帰りました。

主はそのようなささげものを喜ばれません。信仰の行為をしているようでも、その動機は自分の喜びのためであるような奉仕は、主に喜ばれないのですから、気をつけましょう。

①神のみこころは? (信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか? (感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか? (あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか?



21日 火曜

I サムエル

15:24 サウルはサムエルに言った。「私は罪を犯しました。兵たちを恐れて、彼らの声に聞き従い、【主】の命令と、あなたのことばに背いたからです。

15:25 どうか今、私の罪を見逃してください。そして、私が【主】を礼拝することができるように、一緒に帰ってください。」

15:26 サムエルはサウルに言った。「私はあなたと一緒に帰りません。あなたは【主】のことばを退け、【主】があなたをイスラエルの王位から退けられたからです。」

15:27 サムエルが引き返して行こうとしたとき、サウルが彼の上着の裾をつかんだので、上着は裂けた。

15:28 サムエルは彼に言った。「【主】は、今日、あなたからイスラエル王国を引き裂いて、これをあなたよりすぐれた隣人に与えられました。」

15:29 実は、イスラエルの栄光である方は、偽ることもなく、悔やむこともない。この方は人間ではないので、悔やむことがない。」

15:30 サウルは言った。「私は罪を犯しました。しかし、どうか今は、私の民の長老とイスラエルとの前で私を立ててください。どうか一緒に帰ってください。私はあなたの神、【主】を礼拝します。」

15:31 サムエルはサウルについて帰り、サウルは【主】を礼拝した。

15:32 サムエルは言った。「アマレクの王アガグを、私のところに連れて来なさい。」アガグは、喜び勇んで彼のもとに来た。アガグは「きっと、死の苦しみが去るだろう」と思ったのであった。



15:33 サムエルは言った。「おまえの剣が、女たちから子を奪ったように、おまえの母も、女たちのうちで子を奪われた者となる。」こうしてサムエルは、ギルガルにおいて【主】の前で、アガグをずたずたに切った。

15:34 サムエルはラマへ行き、サウルはサウルのギブアにある自分の家へ上って行った。

15:35 サムエルは死ぬ日まで、再びサウルを見ることはなかった。しかしサムエルはサウルのことで悲しんだ。【主】も、サウルをイスラエルの王としたことを悔やまれた。

サムエルは主がサウルを退けたのを知って、彼から離れようをしましたが、サウルは彼を引き止めました。それは彼の面目を保つためでした。

サウルは「罪を犯しました」と認めましたが、その罪の結果を引き受けようとも、自らが変わろうともしませんでした。また「民の声に従った」と言ったり、「面目を保ってください」と願ったりで、弁解と保身しか考えていなかったのです。

これはまさに形だけの悔い改めの型のようなものです。悔い改めるときには、主のさばきにゆだねて、最善をなしてもらい、自分自身は全く変えられるようにと願うものです。

そのようなサウルの自己中心な悔い改めは、彼をますます王位から遠ざけたと言えそうです。神は「失敗した。こうするんじゃないかった。」というように「悔いる」方ではありませんが、サウルを憂い、イスラエルを哀れむ意味では「悔やまれる」方です。（悔いるの言語は、心に痛みを覚えるという意味もあります。）

主に従わなければ、誰もその使命を続けることはできません。その意味では誰もが悔い改めて方向修正する必要があります。決して失敗することのない主に従い、また痛みを覚えてくださる主に頼って、人生のまた今日の使命を全うさせていただきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



22日 水曜

I サムエル

16:1 【主】はサムエルに言われた。「いつまであなたはサウルのことで悲しんでいるのか。わたしは彼をイスラエルの王位から退けている。角に油を満たせ。さあ、わたしはあなたをベツレヘムエッセイのところ遣わす。彼の息子たちの中に、わたしのために王を見出したから。」

16:2 サムエルは言った。「どうして私が行けるでしょうか。サウルが聞いたら、私を殺すでしょう。」【主】は言われた。「一頭の雌の子牛を手にし、『【主】にいけにえを献げるために来ました』と言い、

16:3 エッセイを祝宴に招け。わたしが、あなたをなすべきことを教えよう。あなたはわたしのために、わたしが言う人に油を注げ。」

16:4 サムエルは【主】がお告げになったとおりにして、ベツレヘムにやって来た。町の長老たちは身震いしながら彼を迎えて言った。「平和なことでおいでになったのですか。」

16:5 サムエルは言った。「平和なことです。【主】にいけにえを献げるために来ました。身を聖別して、一緒に祝宴に来てください。」そして、サムエルはエッセイと彼の息子たちを聖別し、彼らを祝宴に招いた。

16:6 彼らが来たとき、サムエルはエリアブを見て、「きっと、【主】の前にいるこの者が、主に油を注がれる者だ」と思った。

16:7 【主】はサムエルに言われた。「彼の容貌や背の高さを見てはならない。わたしは彼を退けている。人が見るようには見ないからだ。人はうわべを見るが、【主】は心を見る。」

16:8 エッセイはアビナダブを呼んで、サムエ

ルの前に進ませた。サムエルは「この者も【主】は選んでおられない」と言った。

16:9 エッセイはシャンマを進ませたが、サムエルは「この者も【主】は選んでおられない」と言った。

16:10 エッセイは七人の息子をサムエルの前に進ませたが、サムエルはエッセイに言った。「【主】はこの者たちを選んでおられない。」

16:11 サムエルはエッセイに言った。「子どもたちはこれで全部ですか。」エッセイは言った。「まだ末の子が残っています。今、羊の番をしています。」サムエルはエッセイに言った。「人を遣わして、連れて来なさい。その子が来るまで、私たちはここを離れないから。」

16:12 エッセイは人を遣わして、彼を連れて来させた。彼は血色が良く、目が美しく、姿も立派だった。【主】は言われた。「さあ、彼に油を注げ。この者がその人だ。」

16:13 サムエルは油の角を取り、兄弟たちの真ん中で彼に油を注いだ。【主】の霊がその日以来、ダビデの上に激しく下った。サムエルは立ち上がってラマへ帰って行った。

ダビデはメシア（救い主）のひな型で、メシアはダビデのような主権を確立すると期待されました。そのメシアであるイエス様を、ダビデは子孫であるのにもかかわらず主と呼んでいます。そのことからメシアは血肉の家系や地上の出来事を越えた天的なお方であるということが明らかにされています。

このようにダビデ王はメシア理解に重要な人物ですが、そのダビデ王は人間の基準で選ばれたのではないということが表されています。「人が見るようには見ないからだ。人はうわべを見るが、主は心を見る。」



との言葉通りです。

サウルはその点、人々の要望により、背の高さなどからふさわしいと思われた人でした。神の視点で、神の価値観で物事を見るようにしましょう。その視点を折って主からいただくみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたの中の部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



23日 木曜

I サムエル

16:14 さて、【主】の霊はサウルを離れ去り、【主】からの、わざわいの霊が彼をおびえさせた。

16:15 サウルの家来たちは彼に言った。「ご覧ください。わざわいをもたらす、神の霊が王をおびえさせています。」

16:16 わが君。どうか御前におりますこの家来どもに命じて、上手に豎琴を弾く者を探させてください。わざわいをもたらす、神の霊が王に臨むとき、その者が豎琴を手にして弾くと、王は良くなれるでしょう。」

16:17 サウルは家来たちに言った。「私のために上手な弾き手を見つけて、私のところに連れて来なさい。」

16:18 家来の一人が答えた。「ご覧ください。ベツレヘム人エッサイの息子を見たことがあります。弦を上手に奏でることができ、勇士であり、戦士の出です。物事の判断ができ、体格も良い人です。【主】が彼とともにおられます。」

16:19 サウルは使いをエッサイのところに送って、「羊とともにいるあなたの息子ダビデを、私のところによこしなさい」と言った。

16:20 エッサイは、ろば一頭分のパンと、ぶどう酒の皮袋一つ、子やぎ一匹を取り、息子ダビデの手に託してサウルに送った。

16:21 ダビデはサウルのもとに来て、彼に仕えた。サウルは彼がたいへん気に入り、ダビデはサウルの道具持ちとなった。

16:22 サウルはエッサイのところに人を遣わして、「ダビデを私に仕えさせなさい。気に入ったから」と言った。

16:23 神の霊がサウルに臨むたびに、ダビデ



は豎琴を手にとって弾いた。するとサウルは元気を回復して、良くなり、わざわいの霊は彼を離れ去った。

「主からの霊」とは「主の霊」ではなく、すべてのものは主の許しがあって存在するという考えからきている表現です。苦しみはサタンがつくるものですが、「主からの試練」と表現するのと同じです。

サウルは自分の苦しみ为主への反逆からきていることに気づいて、悔い改めるべきでしたが、それをせずに音楽に癒しを求めました。主の霊が離れた後だったので、悔い改めができなかったということも言えるでしょう。私たちがもしも悔い改めることができたなら、それな主の霊すなわち聖霊様によるものであるということ覚えて、感謝しましょう。

そのよう状況でダビデのことが話題になります。主によって選ばれて王となることが定まっていたダビデでしたが、それまでには主の定めたプロセスがあったのです。私たち1人1人の人生にも主の定めた計画がありますが、そこに至るプロセスがあり、成長やきよめまた備えがあることを知るべきです。

豎琴は王としての働きには関係ないようですが、それも無駄ではなく、王へのプロセスに用いられました。主のご計画に進む者にとっては何事も用いられ、心を込めて主のためにささげることは無駄ではないことを信じましょう。また期待しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 24日 金曜

I サムエル



17:1 ペリシテ人は戦いのために軍隊を召集した。ユダのソコに集まり、ソコとアゼカの間にエフェス・ダミムに陣を敷いた。

17:2 一方、サウルとイスラエル人は集まってエラの谷に陣を敷き、ペリシテ人に対する戦いの備えをした。

17:3 ペリシテ人は向かい側の山の上に構え、イスラエル人は手前側の山の上に構えた。その間には谷があった。

17:4 一人の代表戦士が、ペリシテ人の陣営から出て来た。その名はゴリアテ。ガテの生まれで、その背の高さは六キュビト半。

17:5 頭には青銅のかぶとをかぶり、鱗綴じのよろいを着けていた。胸当ての重さは青銅で五千シェケル。

17:6 足には青銅のすね当てを着け、背には青銅の投げ槍を負っていた。

17:7 槍の柄は機織りの巻き棒のようであり、槍の穂先は鉄で、六百シェケルあった。盾持ちが彼の前を歩いていた。

17:8 ゴリアテは突っ立って、イスラエル人の陣列に向かって叫んだ。「何のために、おまえらは出て来て、戦いの備えをするのか。おれはペリシテ人、おまえらはサウルの奴隷どもではないか。一人を選んで、おれのところによこせ。

17:9 おれと戦っておれを殺せるなら、おれたちはおまえらの奴隷になる。だが、おれが勝つてそいつを殺したら、おまえらがおれたちの奴隷になって、おれたちに仕えるのだ。」

17:10 そのペリシテ人は言った。「今日、この日、おれがイスラエルの陣を愚弄してやる。

一人をよこせ。ひとつ勝負をしようではないか。」

17:11 サウルと全イスラエルは、ペリシテ人のことばを聞き、気をくじかれて非常に恐れた。

ペリシテ人は神の民に敵対するものであり、神のご計画を妨げた民です。それはサタンから来る様々な妨害の型でもあります。つまり私たちはゴリアテのような敵や問題に直面することがしばしばあるのです。

それは、倒さなければ自分がやられてしまう、難敵であり、避けて通れないものです。しかし自分には倒せない大きな問題であるばかりか、味方の誰にも歯が立たない力です。しかも明らかに勝ち誇り、好戦的です。イスラエル人が「意気消沈し、非常に恐れた」とあるように、戦う意欲さえも失せてしまうようなものです。

どう考えても負けは目に見えているような問題に、どのように立ち向かえば良いのでしょうか。まずはこのダビデとゴリアテの出来事があらゆる世代で有名であるように、ゴリアテのような強力な敵が存在することは、特殊なことではなく、よくあり得ることだと知しましょう。普通の出来事なのです。

そして後に主の民が勝利したように、驚くべき結果のお膳立てにしか過ぎないのです。ここに記されたゴリアテの力の記述は後の勝利のすばらしさを表すものです。

そのような信仰を持ちましょう。信仰の目、神の全能に立って、問題をもう一度見てみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



25日 土曜

I サムエル



17:12 さて、ダビデは、ユダのベツレヘム出身の、エッサイという名のエフラテ人の息子であった。エッサイには八人の息子がいた。この人はサウルの時代には、年をとって老人になっていた。

17:13 エッサイの上の三人の息子たちは、サウルに従って戦いに出ている。戦いに行っていた三人の息子の名は、長男エリアブ、次男アビナダブ、三男シャンマであった。

17:14 ダビデは末っ子で、上の三人がサウルに従って出ているのである。

17:15 ダビデは、サウルのところへ行ったり、帰ったりしていた。ベツレヘムの父の羊を世話するためであった。

17:16 例のペリシテ人は、四十日間、朝早くと夕暮れに出て来て立ち構えた。

17:17 エッサイは息子ダビデに言った。「さあ、兄さんたちのために、この炒り麦一エバと、このパン十個を取り、兄さんたちの陣営に急いで持って行きなさい。

17:18 この十個のチーズは千人隊長に届け、兄さんたちの安否を確認しなさい。そして、しるしを持って来なさい。

17:19 サウルと兄さんたち、それにイスラエルの人はみな、エラの谷でペリシテ人と戦っているから。」

17:20 ダビデは翌朝早く、羊を番人に預け、エッサイが命じたとおりに、言われた物を持って出かけた。彼が野営地に来ると、軍勢はときをあげて陣地に向かうところであった。

17:21 イスラエル人とペリシテ人は、向かい合って陣を敷いていた。

17:22 ダビデは、父からことづかった物を武器を守る者に預け、陣地に走って来て、兄たちに安否を尋ねた。

17:23 ダビデが彼らと話していると、なんと、そのとき、あの代表戦士が、ペリシテ人の陣地から上って来た。ガテ出身のゴリヤテという名のペリシテ人であった。彼は前と同じことを語った。ダビデはこれを聞いた。

17:24 イスラエルの人はみな、この男を見たとき、彼の前から逃げ、非常に恐れた。

17:25 イスラエルの人々は言った。「この上って来た男を見たか。イスラエルをそしるために上って来たのだ。あれを討ち取る者がいれば、王はその人を大いに富ませ、その人に自分の娘を与え、その父の家にイスラエルでは何も義務を負わせないそうだ。」

17:26 ダビデは、そばに立っている人たちに言った。「このペリシテ人を討ち取って、イスラエルの恥辱を取り除く者には、どうされるのですか。この無割礼のペリシテ人は何なのですか。生ける神の陣をそしるとは。」

17:27 兵たちは、先のことばのように、彼を討ち取った者には、これこれをされる、と言った。

キリストのひな型として救い主のことを指し示すために、王とされたダビデの若いころの性格が表されています。彼は末っ子であって、家族からは（周囲の誰からも）期待されるような存在ではありませんでした。

しかし父には忠実であり、兄たちによく仕える人でした。また何よりも純朴な信仰を持っていました。聖なる神が「なぶられ」ることに我慢できないほど神を愛し慕い、また神に敵対する者はだ

れであろうと「何ものですか」と、全く恐れない心を持っていました。つまり神に従う者は勝利で、反逆するものは敗北という純真な信仰を持っていたのです。

そしてその信仰にこそ勝利の可能性があったのです。イスラエルの大人たちは「非常に恐れ」ていましたから、彼らには勝利の可能性がなかったわけです。知恵や見通しも大切ですが、それ以上に生ける神の力を純粋に信じましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



26日 日曜

I サムエル

17:28 兄のエリアブは、ダビデが人々と話しているのを聞いた。エリアブはダビデに怒りを燃やして言った。「いったい、おまえは、なぜやって来たのか。荒野にいるあのわずかな羊を、だれに預けて来たのか。私には、おまえのうぬぼれと心にある悪が分かっている。戦いを見にやって来たのではないのか。」

17:29 ダビデは言った。「私が今、何をしたというのですか。一言、話ただけではありませんか。」

17:30 ダビデは兄から別の人の方に向き直り、同じことを尋ねた。すると、兵たちは先ほどと同じ返事をした。

17:31 ダビデが言ったことは人々の耳に入り、サウルに告げられた。それで、サウルはダビデを呼び寄せた。

17:32 ダビデはサウルに言った。「あの男のために、だれも気を落としてはなりません。このしもべが行って、あのペリシテ人と戦います。」

17:33 サウルはダビデに言った。「おまえは、あのペリシテ人のところへ行って、あれと戦うことはできない。おまえはまだ若いし、あれは若いときから戦士だったのだから。」

17:34 ダビデはサウルに言った。「しもべは、父のために羊の群れを飼ってきました。獅子や熊が来て、群れの羊を取って行くと、

17:35 しもべはその後を追って出て、それを打ち殺し、その口から羊を救い出します。それがしもべに襲いかかるようなときは、そのひげをつかみ、それを打って殺してしまします。

17:36 しもべは、獅子でも熊でも打ち殺しま



した。この無割礼のペリシテ人も、これらの獣の一匹のようになるでしょう。生ける神の陣をそしたのですから。」

17:37 そして、ダビデは言った。「獅子や熊の爪からしもべを救い出してくださいました

【主】は、このペリシテ人の手からも私を救い出してくださいます。」サウルはダビデに言った。「行きなさい。【主】がおまえとともにいてくださるように。」

17:38 サウルはダビデに自分のよろいかぶとを着けさせた。頭に青銅のかぶとをかぶらせて、それから身によろいを着けさせたのである。

17:39 ダビデは、そのよろいの上にサウルの剣を帯びた。慣れていなかったので、ためしに歩いてみた。ダビデはサウルに言った。「これらのものを着けては、歩くこともできません。慣れていませんから。」ダビデはそれを脱いだ。

17:40 そして自分の杖を手に取り、川から五つの滑らかな石を選んで、それを羊飼いの使う袋、投石袋に入れ、石投げを手にし、そのペリシテ人に近づいて行った。

ダビデが勇ましいことを言うのを聞いて、兄は諷めました。弟が心配であったのかもしれませんが、ダビデは誰もが自分を認めないことを知っていましたが、怯（ひる）みませんでした。

自分は勝てると思っていたのですが、その根拠は「生ける神の陣をなぶったのですから。」という神のための義憤と信仰です。主のために熱心な思いを持って、熱い心を内に持ち続けたいものです。そしてそれを言葉だけでなく、勇気ある行動で表しましょう。

またダビデの根拠は自分の仕事です。兄弟の間では一番期待されていなかったようですが、それで

も自分に与えられた役割に全力を傾けていました。それが石投げの技術を生み、さらには思いがけない重大なときに用いられたのです。小さなことにも主からの役割と感謝して、一生懸命やりましょう。

主がそのようなダビデを選ばれたことに心を留め、信仰の模範としましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

